

労協連だより

東京を6年ぶりに離れた全国総会が、杜の都・仙台秋保温泉で催された。浅野宮城県知事の力強い核心的な挨拶を始め、仙台市・ILO・連合・JA宮城・宮城生協連・登米森林組合など、そうそうたる来賓の方々の挨拶も、形式的でない、具体的な期待やメッセージで激励いただいた。

こうした来賓の方々の出席が彩りだとすれば、この総会に成果と課題を持ち寄った各地の代表が発言や感想で示した確信と志は、ここ数年の停滞・破綻の危機から、前を向いて新たな歩みを踏み出す勇氣と希望がほとばしった、久しぶりに爽快感が残る総会であった。もちろん、新緑の季節に秋保温泉で、というロケーションもさることながら、現状を突き抜け、期待へと手を伸ばそうとする新鮮で斬新な新しい力の登場によるところが大きかった。ともあれ、「新しい公共性を担う労協」という位置づけが、この間のヘルパー講座・地域福祉事業所づくり・仕事おこし講座と積み上げてきた成果によって、自分たちの確信になり、回りからの共感と期待を集めていることを、総会参加者は実感したといえる。

総会の準備過程で、新規に加盟した企業組合ビホロ（宮城・女川）空白県だった青森県にセンター事業団の事業所（八戸）ができたこと、この総会の交通の切り盛りを引き受けていただいた、地元秋保で労働者がお金を出して立ち上げたタクシー会社・秋保交通との出会いなど、総会が瞬間的なイベントとしてではなく、運動を広げ事実を

古村伸宏（日本労協連・事務局長）作る取り組みとして、新しい位置づけで今後も開催されていくことになるだろう。

今年最大のイベントとなる協同集会inながらも、記念講演が寺島実郎氏に確定し、普及・宣伝と分科会の内容づくりにステップアップする段階を迎えている。2000名という最大規模の協同集会にすべく、現地の準備もピッチが上がってきた。とはいえ、こうした動きを支える事務局体制は非常に少手で、本部・協同総研から人材の派遣もしなければならない。ぜひ、知恵と具体的な力を、協同総研会員各位からもいただけるよう、紙面を借りてお願いしたい。

朝日新聞主催のシンポジウム「超少子社会と向き合う一問われる生き方・施策」において、この間若者の仕事おこしを共に取り組んでいる広井先生（千葉大）と、その流れで紹介頂いた池本美香氏（日本総研）が語っている言葉を目にし、協同労働の仕事おこしが持っている普遍的な価値・可能性を改めて感じ、同時に我々の発信力の弱さを痛感している。池本氏とは、ワーカーズコープの可能性にも着目してもらい、さまざまな実践を知ってもらい、具体的実践と社会的課題の両面から、今後も関係作りを進めていければ、と感じている。

失業情勢をめぐる若年層の仕事が大きな焦点となってきたこと、少子化がいよいよ深刻化を極める中で、我々の事業の基本的な理念や取り組む意義を鮮明にし、共に汗する仲間づくりを訴えることが求められている。介護への取り組みがそうであったよう

に、地域づくりや社会のあり方と結んだ、仕事おこしの具体的な想定いや量的・質的目標を練り上げるべきときである。このことは、総会で決めた「地域再生・就労創出」政

策の具体化及びその目標の共有化にあたる。

また暑い夏がやってくる。この暑さを、全国の仲間と共有する、そんな夏にしたい。

研究所たより 研究所たより

「イタリア社会的協同組合調査報告」



昨年9月に行ったイタリア調査の報告書ができました。基本的に「協同の発見」誌に掲載した記事、および報告を再録したのですが、コンパクトにまとまっており、イタリア

の社会的協同組合の最近の状況がよくわかるようになっていきますので、ぜひお買い求め下さい。

(定価500円：お申し込みは協同総研まで)

【目次】

発刊にあたって	中川雄一郎
イタリア社会的協同組合の形成過程と現況、課題	市場の再構築の担い手となる協同側の取り組みとは
	田中夏子
地域の普遍的利益を追求する協同組合	岡安喜三郎
福祉実現に適合的な供給主体の探求	イタリア社会的協同組合を対象に
	鈴木 勉
協同労働の現場から見たイタリアの協同組合・社会的協同組合	現田友明
(資料) ISTAT 発表「イタリアの社会的協同組合2001」	訳 岡安喜三郎

いま「協同」を拓く2004全国集会 in ながの

10月30日、31日に開催予定の、「いま「協同」を拓く2004全国集会 in ながの」の準備が、少しずつ進んでいます。ご存知の通り、87年以来、2年に1度開催されてきたこの集会は、今回で10回目(前回の千葉・九州集会を一つのものとして)となります。

既報の通り、すでに地元長野県の田中康夫知事が参加を承諾され、対談相手は当研究所の会員でもあるILO駐日代表の堀内光子さんに決まりました。また、基調講演は、財団法人日本総合研究所理事長の寺島実郎さんをお願いすることができました。

寺島氏はその著書の中で、NPOの3つの社会(工学)的意義として、雇用を生み出し失業率を押し下げていること 社会政策のコストを引き下げること 働く意義の創造、を挙げ、これからの日本にとっての「新しい公共(パブリック)」という概念との関連で市民が主体的に社会的課題に取り組むNPOの役割について言及されています。(『正義の経済学』ふたたび』日本経済新聞社)

2年ほど前に、協同労働の協同組合法制化市民集会で講演をお願いした(日程の都合で実現しませんでした)こともあり、現在の協同労働をとりまく状況や、私たちの問題関心とかなり「噛み合う」お話を聞くことができるのではないかと思います。

菊地 謙

協同総合研究所 2004年度総会のご案内

協同総合研究所第14回総会を下記のように開催いたします。詳細は後日お知らせいたしますが、多くの方々のご参加をお待ちしております。

とき : 6月26日(土)

会場 : 明治大学駿河台校舎研究棟2F 第9会議室

(〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1丁目1)

■総会 10:30～12:30

■研究会 13:30～15:30

「イギリスの社会的企業の展開—サンダーランドの事例から—」

講演 中川雄一郎 (協同総研理事長)

※会員の方々は、出欠および委任のハガキを必ずお出しただけですよう、よろしく願いたします。